

小児等在宅医療連携拠点事業 中間報告について

平成26年11月21日
千葉県健康福祉部障害福祉課

1-1 事業開始前の取組みと、その際に検討された課題

(1) 障害児の療育支援の観点からのアプローチ

- 障害者基本法第9条に基づく「第四次千葉県障害者計画」(平成21年1月)の策定にあたり、障害児の関係者で構成する「障害児療育・支援体制のための研究会」を設置し、障害児支援施策について意見交換。
- 平成21年4月、障害者自立支援法に基づく「千葉県自立支援協議会 療育支援専門部会」に改組し、現在まで、障害児や保護者への重層的な支援体制や各種の支援策を検討（平成25年4月から「千葉県総合支援協議会 療育支援専門部会」に名称変更）
- 療育支援専門部会での検討をもとに、医療依存度の高い障害児の在宅生活を支援するため、平成23年度から、「障害児等支援訪問看護センター事業」を実施。

(2) 障害児等支援訪問看護センター事業(県単独事業)

	H23.10 ～H24.3	H24.4 ～H24.9	H24.10 ～H25.3	H25.4 ～H25.9	計
① 医療的ケアが必要な障害児とその家族からの在宅生活等に関する相談支援	18件	25件	45件	55件	143件
② 訪問看護ステーションが行う訪問看護に対する助言や同行等の技術的支援	9件	4件	27件	37件	77件

※ 県内の2つの医療法人に委託して実施。(年間予算: 約6,300千円×2法人)

※ 医師、看護師等で構成する障害児等支援在宅医療・訪問看護研究会(会長: 前田浩利氏)を設置し、事業の進行管理、課題の抽出・検討等を実施。

(3) 障害児等支援訪問看護センター事業(県単独事業)で検討された課題

- 《医療》 ○ 小児等を対象とする訪問看護ステーションのさらなる拡大、人材の育成
○ 小児在宅医療に従事する医師の拡大とネットワークづくり
○ NICUからの退院促進のための専門医療機関との連携と社会資源の創出
- 《福祉・行政》 ○ 多職種連携による協働支援や、地域の障害福祉行政職員等への啓発
○ 医療依存度の高い障害児の支援利用計画を作成する相談支援専門員のスキルアップ
- 《教育》 ○ 特別支援学校等への入・通学の配慮や、卒業後を視野に入れた社会資源の活用環境整備
- 《その他》 ○ 小児等在宅医療についての当事者・家族・支援者への周知や県民への啓発



1-2 事業開始前の取組みと、その際に検討された課題

(4) H25事業結果を受け認識した課題

○在宅医療に関わる医師のネットワーク強化や増加

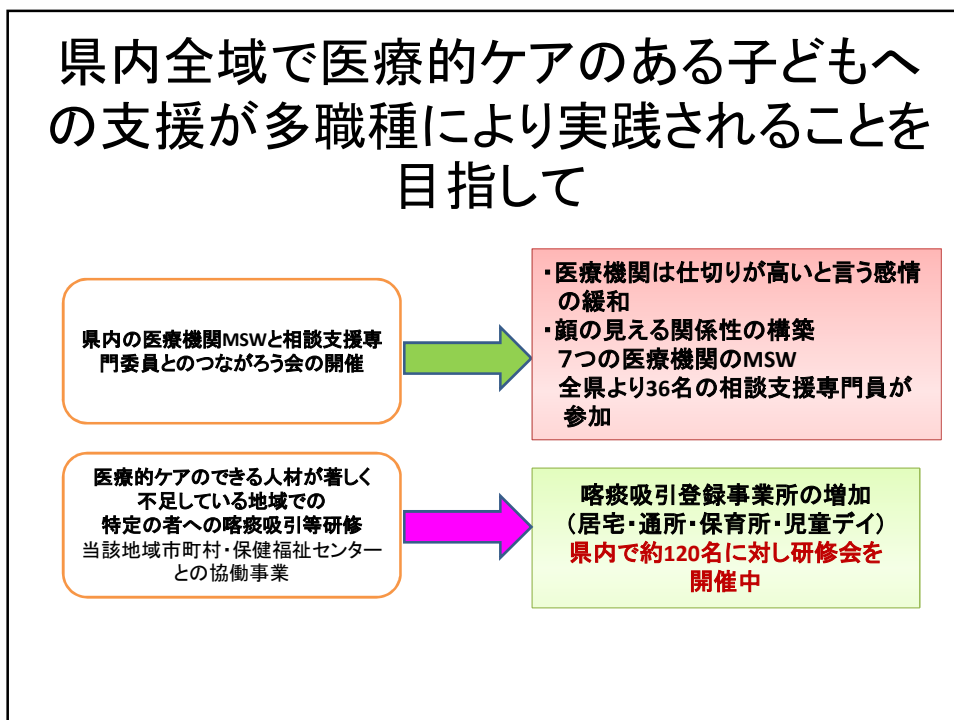
○教育との連携強化(特別支援学校の現場サイドとの連携)

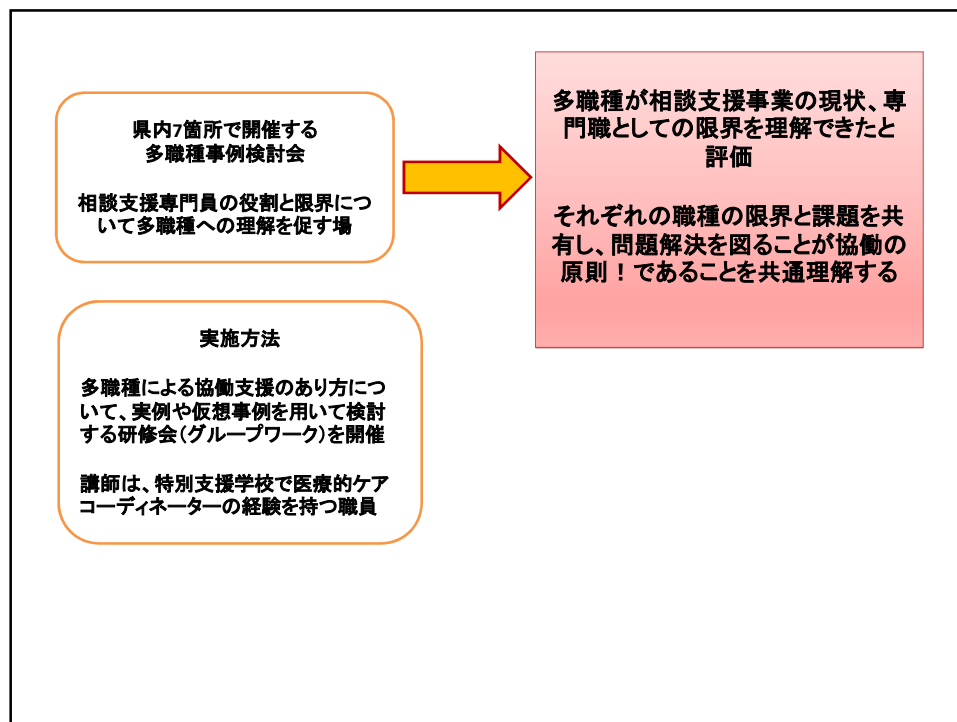
○各医療圏のリーダ的存在として活動できる相談支援専門員の育成

2-1 年間スケジュール表とタスク別の進捗状況

事業項目	具体的事業	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業の進行、課題の抽出・検討	定例会、在宅医療研究会、療育支援専門部会の開催		部会研究会	部会	研究会			会議		会議	まとめ
地域の医療・福祉資源の把握と活用	1 「千葉県つながろうマップ」の更新				準備	---	---	情報把握		更新	
	2 短期入所空床情報					施設に確認	公開準備		公開	---	---
地域の小児等への在宅医療資源の拡充と専門機関との連携	1 訪問診療拡充の取り組み(ケースカンファレンス)	関係機関への広報活動		1回目 8/21	連携要素抽出		2回目 11/13	連携要素抽出		3回目 2/12	連携要素抽出 まとめ
	2 訪問看護人材育成 1 集合研修			準備	周知	実施	---	---			
	2 同行訪問研修									まとめ	
	3 超重症児アセスメント研修			準備	周知	実施	---	---			
	3 訪問診療医と医療機関の医師とのネットワーク作り	広報調整		開催 8/28			開催 11/20			開催 2/19	
地域の福祉と行政関係者との連携促進	1 相談支援専門員と医療機関のソーシャルワーカーとのネットワーク構築	広報調整	参加者募集			開催 10/31	事業評価				
	2 多職種事例検討会	広報調整			鎌ヶ谷市 9/20 千葉市 9/27	鴨川市 10/4 市川市 10/11	木更津市 11/22	市原市 12/6	四街道市 1/17		
	3 相談支援専門員育成 1 初心者研修 2 リーダ研修	準備		受講生募集				研修会	研修会	まとめ	
	4 拠点事業と市町村との連携会議	広報募集		開催 8/1			開催 11/27		開催 2/5		

2-2 年間スケジュール表とタスク別の進捗状況												
事業項目	具体的事業	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
患者・家族や学校関係者への理解促進・負担軽減	1 特別支援学校教諭との意見交換			意見 交換会 8/30								
	2 校長・教頭会との意見交換								実施			
	3 制度や専門職種の役割理解のためのシンポジウム				広報 準備				開催 1/18			
その他	1 同行訪問研修プログラム開発	研究	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	まとめ
	2 喀痰吸引等医療的ケアができる人材の育成		実施	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	まとめ
	3 医療的ケアのある子供を支援する福祉職等の人材育成				広報 準備	実施	-----	-----	-----	-----	-----	-----





多職種事例検討会開催地

開催地

- ・鎌ヶ谷市 9月20日(5名参加)
- ・千葉市 9月27日(22名参加)
- ・鴨川市 10月4日(6名参加)
- ・市川市 10月11日(20名参加)
- ・木更津市 11月22日(予定)
- ・市原市 12月6日(予定)
- ・四街道市 1月17日(予定)

主な参加職種

訪問看護師、薬剤師、MSW、保健師、理学療法士、福祉職、相談支援専門員 等

特定の者への喀痰吸引等研修開催場所



開催地

- ・千葉市 10月7・8日(30名参加)
- ・柏市 10月21・22日(20名参加)
- ・山武地域 9月30日(15名参加)
- ・成田市 11月7・21日(15名参加)
- ・夷隅長生 11月4・5・18・19日
(10名参加)
- ・木更津市 10月16・30日、11月12日
(20名参加)
- ・市原市 2月(予定)

喀痰吸引等研修事業の波及効果

1. 退院に際して居宅介護を活用できる地域が増えた
2. 今まで資源のなかった地域で福祉職が預かり事業を開設することを決めた
3. 本事業の成果を自市町村でも実施したいと福祉計画に盛り込むことを検討する市町村が現れた
4. 成果がはっきりした為、研修登録機関を有する医療法人に事業の勧誘が容易となった



3 新たな課題

《事業開始後に認識した新たな課題》

- 地域によって、医療依存度の高い小児の数や状況の把握ができていない、又は困難である。
- 医療依存度の高い小児を在宅で看護する家族を支えるための、短期入所事業所の数が少ない。
- 短期入所事業所の空床情報をリアルタイムに提供することが困難である。
- 相談支援専門員向けガイドラインに教育分野の内容を盛り込む必要がある。
- 小児やその家族が必要とする福祉サービスを利用するための「障害児等支援利用計画」の作成が、なかなか進んでいない。（障害者のための「サービス等利用計画」の作成と比べてもさらに遅い。）

《事業開始前後の課題解決に向けた今後の取組み》

「千葉県総合支援協議会 療育支援専門部会」「千葉県障害児等支援在宅医療・訪問看護研究会」等で審議し、適宜、千葉県医師会、千葉県看護協会等の協力を得ながら事業計画に沿って着実に事業を進めるとともに、課題解決に向けた対応方針を検討します。 また、新たな課題に対し、以下の取組みを実施します。

- 短期入所事業所の空床情報の提供（県ホームページに連絡先を掲載）
- 相談支援専門員向けガイドラインの改定
- 相談支援専門員の障害児支援のための（ガイドラインを活用した）スキルアップ研修の実施

